

# 在宅介護での褥瘡予防・ケアのポイント

**在** 在宅介護における頭の痛い問題、「褥瘡」の予防とケアについて、ケアマネジャーが知っておきたい、多職種連携と福祉用具の活用、そしてアセスメントやモニタリング時にチェックしたいポイントを、3人の専門家による分かりやすい解説でまとめました。

## Part 1

# 褥瘡予防・ケアにおけるリハビリテーションの視点

▶執筆 日高正巳 兵庫医科大学 リハビリテーション学部 教授



### ●必要性と役割 予防・ケアの先に、生活を!

褥瘡ケアを考えていくと、褥瘡ができたあとどのように回復していくのかという治療的ケア、そして、褥瘡の発生要因を減らす予防的ケアの2つの側面に目がいきます。リハビリテーション領域に対する期待としても、物理療法などを用いた褥瘡治療、褥瘡の発生要因である関節拘縮や骨突出につながる筋萎縮、活動性の低下などに対する働きかけが求められます。しかし、本来「リハビリテーション」とは、方法論ではなく理念です。したがって、どのような理念をもって関わるのかということが重要になってきます。褥瘡発生を予防したり、形成された褥瘡の治療を促進したりしていくことは当然のことながら、さらに大切になってくることは、その先にある“生活”です。褥瘡を予防するだけの日々、褥瘡

を治すことだけの日々ではなく、毎日をどのように暮らしていくのかという「生活の視点」に目を向けていくことが、リハビリテーションの視点からは大切になってきます。

褥瘡の発生リスクを有する人が活動していく場合には、種々の注意が必要となります。シーティングやポジショニングのように、生活をしていく際の姿勢や環境への働きかけも大切になってきます。また、トランスファーのように姿勢を変換していくときにも留意が必要でしょう。それら一つひとつの活動をどのようにしていくことが褥瘡予防・ケアにつながるのかを考えていくことが、リハビリテーションの視点となってきます(図1)。

### ●多職種連携のポイント オーバーラップで抜け落ちをなくす

リハビリテーションの視点から褥瘡ケ

図1 座圧計測結果を捉える着眼点

	X00	X01	X02	X03	X04	X05	X06	X07	X08	X09	X10	X11	X12	X13	X14	X15
Y00																□
Y01			22	24	23											
Y02		26	30	33	35	27										
Y03	20	32	34	36	39	39	28					28	26	24		
Y04	27	36	38	40	42	45	45				34	31	28	26		
Y05	32	42	45	48	51	52	51	33		38	43	39	36	32	28	
Y06	38	48	54	60	64	61	55	37	27	47	50	49	45	41	35	
Y07	46	59	65	71	77	72	61	24	24	52	57	57	54	48	39	20
Y08	54	65	71	80	90	83	64	29	38	58	63	63	59	50	40	22
Y09	43	62	70	84	103	94	71	43	51	64	67	65	59	49	33	
Y10	52	63	71	92	124	113	77	44	54	69	77	71	60	43	33	
Y11	47	62	75	99	125	107	81	61	64	75	83	79	67	51	35	
Y12	41	61	70	84	95	86	77	65	65	76	80	72	61	48	31	
Y13	28	51	59	64	69	70	67	62	62	71	67	59	50	39	20	
Y14		39	46	52	58	60	54	52	51	60	53	42	38	26		
Y15			33	37	42	42	33	34	23	33	42	24	21			

- ①最大値はいくらか?
- ②最大値を示している部位はどこか?
- ③分散している面積は?
- ④分散している部位はどこか?
- ⑤分散の左右差はあるか?